




第二次鹿児島市 生物多様性地域戦略

～ 豊かな自然がごしま生きものプラン～



令和4年3月
鹿児島市

はじめに



鹿児島市では、将来の世代に恵み豊かな自然をよりよい状態で引き継いでいくため、平成26年3月に「鹿児島市生物多様性地域戦略（平成26年度～令和3年度）」を策定し、生物多様性の保全と持続可能な利用に向け、取組を進めてまいりました。

一方で、この間、気候変動問題や海洋プラスチックごみ問題などの環境問題に加え、人口の都市部への集中、里地里山の管理不足などにより生物多様性の損失が続いており、私たちが自然や生きものから受けてきた多くの恵みの持続性が失われようとしています。

このような中、本市におきましては、「つながる人・まち 彩りあふれる躍動都市・かごしま」を都市像に掲げる「第六次鹿児島市総合計画」や、「自然と共生し ゼロカーボンを進めるまち かごしま」を望ましい環境像に掲げる「第三次鹿児島市環境基本計画」が本年4月からスタートするところであり、これらの計画を踏まえ、自然共生社会を築いていくための今後10年間の取組の方向性を示す「第二次鹿児島市生物多様性地域戦略」を策定いたしました。

本戦略では、「自然環境の保全・育成」「生物多様性を支える活動の促進」「生物多様性の恵みの活用」を取組の基本方針として定め、長期的な視点に立って多様な主体による生物多様性の保全に向けた取組を積極的に進めることとしております。

戦略の推進にあたりましては、行政はもとより、市民、事業者、市民活動団体等の皆様が緊密に連携・協働しながら、それぞれの立場で取り組んでいくことが何よりも重要でありますので、皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、戦略の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました市民の皆様をはじめ、熱心にご審議いただきました鹿児島市環境審議会並びに生物多様性地域戦略策定に係る専門家会議の委員の皆様、関係各位に心より感謝申し上げます。

令和4年3月

鹿児島市長 下鶴 隆央

目次

Contents

第1章 地域戦略改定にあたって 1

1. 戦略改定の趣旨	2
2. 生物多様性とは	3
(1) 3つの多様性	3
(2) 生物多様性の重要性	4
3. 改定の背景	6
(1) 世界の動向	6
(2) 国の動向	8
(3) 鹿児島市の動向	9
4. 地域戦略の姿	10
(1) 戦略の位置づけ	10
(2) 戦略の役割	11
(3) 対象区域	11
(4) 計画期間	11

第2章 鹿児島市の生物多様性をとりまく環境の現状と課題 13

1. 鹿児島市の自然環境	14
(1) 地史及び地形・地質	14
(2) 気候	17
(3) 錦江湾の海水温	20
(4) 緑の現状	21
(5) 鹿児島市域の水質	23
(6) 火山活動	25
2. 鹿児島市の動植物	26
(1) 概観	26
(2) モニタリングサイト調査結果	28
(3) 植物・植生	32
(4) 動物相（ほ乳類）	36
(5) 動物相（鳥類）	38
(6) 動物相（は虫類・両生類）	40
(7) 動物相（昆虫類・多足類）	41
(8) 動物相（魚類）	43
(9) 動物相（貝類）	44
(10) 動物相（甲殻類）	45
(11) 動物相（その他の動物）	46
(12) 希少野生動植物	47
(13) 外来種	54
3. 鹿児島市の社会環境	60
(1) 鹿児島市の歴史から見た生物多様性	60
(2) 人口動態	62
(3) 土地利用	63
(4) 産業構造	64
(5) 鹿児島市の観光需要	66
(6) 生物多様性にふれ・学ぶ環境	67
(7) 市民・事業者の意識	68
(8) 感染症による影響	70
4. これまでの生物多様性地域戦略の取組	73
5. 生物多様性の保全及び持続可能な利用上の課題	74
(1) 里地里山の機能低下	74
(2) 生息・生育環境への影響	75
(3) 外来種の侵入	75
(4) 気候変動による影響	75
(5) 生物多様性の認知度不足	75
(6) 生物多様性に関する情報不足	76
(7) 保全活動の担い手不足	76
(8) 自然や動植物とのふれあう機会の減少	76

第3章 戦略が目指すもの

77

1. 2050年の望ましい将来像	78
(1) 2050年の都市域の姿	78
(2) 2050年の農山村域の姿	79
(3) 2050年の水域の姿	80
(4) 2050年の人と自然との関わり	81
2. 2031年度の鹿児島市の姿	82
3. 取組の基本方針	82
4. 取組の横断的視点	83
5. 取組の段階	83
6. 各主体に期待される役割	84
(1) 市の役割	84
(2) 市民の役割	84
(3) 事業者の役割	85
(4) 市民活動団体の役割	85
(5) 教育・学習を行う者の役割	86
(6) 専門家の役割	86
(7) 来訪者の役割	86

第4章 行動計画

87

施策の体系図	89
基本方針1 生物多様性を支える自然環境の保全・育成	91
(1) 生きものの生息・生育の場を守り育む	91
(2) 生態系をつなげ機能を高める	101
(3) 親しまれている自然や貴重な生きものを保全する	103
(4) 生物多様性へ影響を与える要因を取り除く	104
基本方針2 生物多様性を支える活動の促進	108
(1) 行動する人を育む	108
(2) 連携・協働して取り組む	110
(3) 情報を集積し発信する	112
基本方針3 生物多様性の恵みの活用	115
(1) 自然とふれあう	115
(2) 暮らしに活かす	117
(3) 観光・産業資源として活かす	120

第5章 重点プロジェクト

123

1. 重点プロジェクトの考え方	124
2. 重点プロジェクト	125

第6章 計画を進めるために

129

1. 推進体制	130
2. 進行管理	131
3. 戦略の見直し	131

資料編

133

用語集	134
鹿児島市に生息・生育する生き物写真集（植物編）	142
鹿児島市に生息・生育する生き物写真集（動物編）	144
参考文献	148
策定過程の概要	151
市民アンケート結果	155
事業者アンケート結果	157

コラム

プラネタリーバウンダリー	6
SDGs 未来都市	9
マグマシティPRキャラクター 火山の妖精マグニオン	11
錦江湾と東京湾	15
ノネコと野良ネコ	36
サツマハオリムシ (<i>Lamellibrachia satsuma</i>)	47
日本人とウナギ 文化と食生活	53
エコロジカル・フットプリント	65
伝統文化と生物多様性	66
ワンヘルス	72
国際生物多様性の日	73
カーボン・オフセットの活用	92
自然の恵み「緑肥の効果、特産林産物」	94
落ち葉も大切な資源	96
生きものと暮らすまちづくり	96
鹿児島島の海岸	99
海洋環境の変化と生きものへの影響	106
桜島の椿林復活プロジェクト	111
世界遺産 寺山の森再生プロジェクト	111
身近な生きものを調べてみよう	114
自然の恵み「グリーンインフラ」	118
食品ロス	119
環境ラベル	119
ニューツーリズム	120